

# 落下物防止等に係る総合対策推進会議（第1回）

## 議事要旨

日時：平成29年11月6日（月）10:30～12:00

場所：中央合同庁舎第4号館共用 1208 特別会議室

議事要旨：

### <議事（1）「落下物防止等に係る総合対策推進会議の開催について」>

○落下物対策については、未然防止と事案発生時の対応を総合的な対策として打ち出していくことが重要であり、本会議の開催は有意義である。また、羽田の新ルートの関係からも落下物が注目されていることから、様々な情報を発信していくことが、国民に理解してもらう上で重要である。さらに、落下物防止対策基準は世界初の試みであり意義がある。

### <議事（2）「最近の落下物・部品脱落の状況と対策の現状について」>

○落下物と部品脱落の関係など、落下物防止等に係る対策等が、国民に正しく理解してもらえるように情報発信すべき。

○落下物の発生部位等についてある程度の傾向があると考えられるため、その傾向を踏まえて地道に対策を講じれば落下物はある程度防止できる。1件1件原因分析等を行いながら、地道に対策を講じることが必要ではないか。

○9月の脱出用スライドドア脱落事案については、全日本空輸においてもボーイングと連携し再発防止策を講じており、情報の公開を含め今後も適切に対応をしていく。

○メーカーとしては、エアラインのみならず、航空局とも連携し、取るべき対策を講じていく。

○重さや落ちやすさなど地上への影響の観点から焦点を絞った上で、落下物の発生原因（発生部位やタイミング）の分析とそれに応じた対策を講じていくべき。また、諸外国に働きかけて、落下物対策の重要性について、共通認識を醸成すべき。将来的には、国際標準を獲得することも目指すべき。

### <議事（3）「今後の進め方について」>

○航空の信頼の確保に向けて、メーカー、エアライン、空港会社等の関係者が同じ方向を向いて、連携して対策を講じるべき。

○社内のノウハウ／顧客のみに提供している情報など、各社が保有している技術情報を、会議でどこまで提供できるか、調整が必要。

○成田空港周辺ではここ10年落下物の件数が減ってきているが、依然として住民の関心は高いため、メーカーやエアラインと連携をして対応していきたい。